

血液科

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

科 長（教 授）	神田 善伸
外来医長（准 教授）	鈴木 隆浩
病棟医長（病院助教）	蘆澤 正弘
医 員（教 授）	室井 一男（兼）
	（准 教授）大森 司（兼）
	（講 師）大嶺 謙
	翁 家国
	藤原慎一郎
	外島 正樹（兼）
（学内講師）	佐藤 一也
（特命講師）	上田 真寿（兼）
（助 教）	岡塚貴世志
	畑野かおる
	松山 智洋（派遣）
（病院助教）	山本 千裕
	上原 英輔（派遣）
	小林 洋行（派遣）

2. 診療科の特徴

- ・北関東における血液疾患診療の数少ない拠点病院として、地域と連携しながら血液疾患の全般を取り扱っている。
- ・世界的に標準とされている治療法を安全に遂行すると共に、難治性疾患に対しては、分子標的療法、造血幹細胞移植、遺伝子治療など高度な治療法を積極的に取り入れ、治療成績の向上を図っている。特に移植件数は国内トップクラスの数を遂行している。
- ・血液診療に精通した薬剤師、看護師、検査技師、臨床心理士、理学療法士、栄養士も診療に積極的に参加することで多面的な患者サポートが可能な体制を取っている。
- ・血栓・出血性疾患についてもエキスパートが診療に関わり対応が可能である。
- ・院内において分子学的診断、遺伝子学的診断を行うことが可能な体制を整えている。また、必要に応じて国内の先端技術を有する専門施設に検査を依頼している。
- ・全国的な多施設共同研究を立案・実施、あるいは参加し、本邦における造血器 腫瘍の治療成績の向上を推進している。また、複数の臨床研究を立案し、さいたま医療センターを初めとする他施設と連携して遂行している。
- ・臨床における問題点を解決することを目指し、*in vitro*および*in vivo*の基礎研究、患者検体を用いた研究

を行っている。

・認定施設

日本血液学会認定研修施設
日本輸血細胞治療学会認定教育施設
日本造血細胞移植学会認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設

・認定医

日本血液学会専門医	17名
日本血液学会指導医	11名
日本内科学会認定医	18名
日本内科学会専門医	8名
日本内科学会指導医	10名
日本輸血学会認定医	3名
日本がん薬物療法専門医	1名
日本がん治療認定医	4名
日本造血細胞移植学会認定医	3名
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者・再来患者数・紹介率

新来患者数	464人
再来患者数	16,076人
紹介率	85.0%

2) 入院患者数（病名別のべ人数）

病名	患者数
急性骨髄性白血病	104
急性リンパ性白血病	38
ホジキンリンパ腫	17
非ホジキンリンパ腫	186
成人T細胞性白血病	3
多発性骨髄腫	19
慢性骨髄性白血病	11
慢性リンパ性白血病	5
再生不良性貧血	2
骨髄異形成症候群	29
慢性骨髄単球性白血病	6
造血幹細胞移植ドナー	27
特発性血小板減少性紫斑病	8
血友病	4
その他	42
（造血幹細胞移植患者）	(71)
合計	501

3) 手術症例病名別件数

病名	人数
骨髄採取術	17

4) 治療成績

急性骨髄性白血病初回寛解率	76%
急性リンパ性白血病初回寛解率	100%
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 初回R-CHOP療法寛解率	96%
濾胞性リンパ腫初回治療寛解率	100%

5) 死亡症例・死因

白血病	16
悪性リンパ腫	6
骨髄異形成症候群	3
再生不良性貧血	1
合計	26
剖検数(剖検率%)	4

6) 主な検査・処置数

骨髄穿刺	約1000件
骨髄生検	約50件
遺伝子診断	約200件
細胞表面抗原解析	約1000件

4. 事業計画・来年の目標

平成28年3月に4階西病棟4人床4室(16床)をクラス10,000の無菌病室に改修している。改修により無菌病室は計24床となり、当施設および近隣他施設の造血幹細胞移植適応患者に対して速やかに対応できるようになると思われる。

栃木県立がんセンター、那須赤十字病院に続き、平成27年度から芳賀赤十字病院へ常勤医師の派遣を開始した。また、県内外の複数の拠点病院において本学のスタッフが非常勤医として血液専門外来を行っている。これにより地域と連携する血液内科診療が可能な体制が構築されている。今後、地域拠点病院への医師派遣を増やすことで、この体制を強化する予定である。

さまざまな臨床研究を積極的に行い新規治療薬、治療法の開発・標準化に貢献する。急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫という症例数の多い腫瘍性疾患に対しては、新規分子標的療法の導入、造血幹細胞移植療法の適応拡大による治療成績向上を目指す。現在遂行中である悪性リンパ腫に対する遺伝子治療を数例実施予定である。

以下、当科が主導または参加している臨床研究である。

1. ベンダムスチン療法におけるサイトメガロウイルス再活性化についての前方視的研究
2. 骨髄異形成症候群における移植決断からの治療戦略

に関する前方視的検討

3. 血液疾患患者における全身化学療法および放射線照射後の抗ミューラー管ホルモンを用いた妊孕性温存の評価に対する前方視的研究
4. 骨髄異形成症候群、再生不良性貧血又は原発性骨髄線維症が疑われる、あるいは診断された貧血患者を対象としたBMP因子血中濃度解析
5. 再発・治療抵抗性の若年者悪性リンパ腫に対するESHAP療法とDHAP療法の有効性と安全性の比較検討
6. インフォームド・コンセントの医療者への負荷の実態に関する検討
7. 造血幹細胞移植後に発症した難治性急性GVHDに対する血縁者由来間葉系幹細胞を用いた治療
8. 高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザシチジン投与方法に関する臨床第III相試験 - 検体集積事業に基づく遺伝子解析研究を含む -
9. 難治性濾胞性リンパ腫に対するbendamustineを併用した前処置による同種造血幹細胞移植療法の安全性と有効性の検討(第1/2相試験)
10. 高齢者造血器腫瘍に対するフルダラビン・全身放射線照射を前処置とした同種移植療法
11. 65歳以下自家造血幹細胞移植後再発多発性骨髄腫に対するボルテゾミブおよびレナリドミドによる再寛解療法と維持療法、および自家・同種造血幹細胞移植による再発後治療の有効性と安全性の検討
12. 低用量アレムツズマブを用いた進行期造血器腫瘍に対するHLA不一致同種造血幹細胞移植の有効性の検討
13. 多発性骨髄腫に対する同種造血幹細胞移植後のレナリドミドを用いた維持療法の安全性の前方視的研究
14. 持続する発熱性好中球減少症に対する従来型の経験的抗真菌治療とD-indexに基づく早期抗真菌治療の無作為割付比較試験
15. GVHD予防法に抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いたgraft-versus-host方向HLA-I抗原不適合血縁者からの造血幹細胞移植療法の多施設共同第II相試験
16. 造血幹細胞移植後におけるB型肝炎ウイルス再活性化の実態および予防に関する多施設共同研究
17. 造血幹細胞移植後におけるB型肝炎ウイルス再活性化の実態および予防に関する多施設共同臨床試験付随研究 - 特異的CTLの単一細胞レパトア解析および特異抗体のキメリズム解析 -
18. 標準リスク進行期造血器疾患に対する低容量アレムツズマブ併用HLA不適合同種造血幹細胞移植の有効性の検討
19. 高リスク進行期造血器疾患に対する移植後免疫抑制剤投与量を調整した低容量アレムツズマブ併用

HLA不適合同種造血幹細胞移植の安全性と有効性の検討

20. 未治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミドによる地固め療法・維持療法に関する有効性と安全性の検討
21. 再生不良性貧血に対する低用量抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリン（anti-thymocyte globulin：ATG）を用いた同種造血幹細胞移植療法の有効性と安全性の検討
22. 末梢血白血球数、芽球割合、芽球絶対数を用いた急性白血病の臨床的検討
23. 高齢者（60歳以上）急性骨髄性白血病（AML）に対する寛解導入療法が予後に及ぼす影響についての後方視的解析
24. 造血幹細胞移植における造血幹細胞輸注時有害事象の実態調査
25. 慢性骨髄単球性白血病（CMML）に対する同種造血幹細胞移植の後方視的検討
26. 造血細胞移植医療の全国調査：関東造血幹細胞移植共同研究グループ（KSGCT）移植患者データベース作成調査研究
27. 細胞表面マーカーを用いた造血器腫瘍の臨床的検討
28. 本邦における非血縁者間末梢血管細胞移植の移植成績に関する観察研究
29. ウイルス感染症に対するcidofovir（商品名：VISTIDE）の投与
30. 一次治療、二次治療抵抗性の同種移植後移植片対宿主病患者に対する、プロピオン酸ベクロメタゾン（BDP）内服療法
31. CD19特異的キメラ抗原受容体発現Tリンパ球を用いた再発・難治性B細胞性悪性リンパ腫に対する遺伝子治療臨床研究